

平成二十六年年度 冬季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「冬」

期間 平成二十六年十一月一日〜平成二十七年一月末
投句数 二、五六四句

特選三句

天

鎌倉の諸寺百佛や煤払ひ

神奈川県逗子市 森澤謙二郎

地

燦燦と残る紅葉や虚子旧居

神奈川県三浦市 秦 孝浩

人

鎌倉のバスの遅れも松の内

東京都杉並区 野村 親信

入選句

一般の部

観音に吹く風清し小六月

神奈川県横浜市戸塚区

有手 勉

由比ヶ浜手袋つけて走る朝

大阪府豊中市

安藤 知明

座禅堂整然として寒に入る

神奈川県鎌倉市

大井 章

継ぎ接ぎの障子に日差し座禅堂

東京都大田区

荻野 操子

鎌倉の夕日に映える冬紅葉

千葉県柏市

梶原 麻菜美

源平の池その水の涸るるなく

東京都目黒区

片桐 啓之

咳一つ聴えし中の法話かな

大阪府豊中市

加藤 あき

家族の背みな丸くなる掘炬燵

東京都東久留米市

紺谷 久美子

七日粥共に啜りて半世紀

神奈川県藤沢市

近藤 拓

鎌倉の海から山へ冬うらら

神奈川県横浜市南区

鈴木 七雄

日脚伸ぶ谷に七つの切通し

神奈川県横浜市戸塚区

高橋 央尚

落葉して大きく見える八幡宮

神奈川県横浜市港南区

高橋 京子

参道を追いかけてこの落葉かな

神奈川県鎌倉市

高橋 千鶴

着ぶくれて雨の鎌倉歩きけり

神奈川県横浜市戸塚区

高橋 洋子

柗の花の香りや英勝寺

千葉県流山市

角田 勇

からす瓜頭上に揺れて切通し

京都府京都市西京区

中村 優江

古都の空くまなく晴れて弓始

埼玉県狭山市

古谷 多賀子

一斉に鎌倉五山除夜の鐘

神奈川県川崎市高津区

松島 弘

夕時雨片手で撫づる力石

東京都大田区

箕輪 賢次郎

鎌倉や名も無き谷戸の寒椿

神奈川県横浜市青葉区

山下 省三

(順不同)

入選句

子どもの部

由比ヶ浜冬暖かで心地よい

埼玉県朝霞市

木下 茜

秋の日に八幡宮に願いごと

埼玉県さいたま市南区

岡村 篤

冬の雨大仏様を洗ってる

埼玉県さいたま市南区

小田 南実

しもばしらきらきらつちにうまってる

埼玉県川口市

澤野 宗宣

北風と一緒に旅行鎌倉へ

東京都八王子市

山崎 大地

大仏と座禅を組んで日向ぼこ

東京都八王子市

檜村 日奈太

横須賀線東海道線冬の陣

東京都八王子市

川井 黎音

時雨るるや地図を片手に駅目指し

東京都八王子市

澤田 優紀

小春日や鳥居の上に鳩眠る

東京都八王子市

椎橋 七海

冬休み父と二人で古都巡る

東京都調布市

姫野 美咲

(順不同)